

外国人材の受け入れ促進のため 技能実習生らとの交流会を実施

技能実習生の教育支援や特定技能の紹介・支援業務を手がける株式会社ウイルオブ・ワークは8月25日、外国人の受け入れに関心のある介護事業者と日本で働くミャンマー人介護士とのオンライン交流会を実施した。

交流会には同社事業開発室長の角陽輔氏と、4人のミャンマー人介護士が登場。角氏が外国人の在留資格の概要や、ミャンマーの文化や国民性といった基本情報について説明したのち、介護事業者からの質問にミャンマー人介護士が答える質疑応答が行われた。

「私生活の支え方」に関する質問に対しては、「職場の先輩たちが一緒に出かけたり、電車の乗り方などを教えてくれたりするとうれしい」といった意見が出た。また、「介護福祉士の資格の取得

希望の有無」については、全員が「取得して、日本に長く住みたい」と答えるなど、介護の仕事に意欲的な様子を見せた。

後の取材において、外国人を受け入れる経営的なメリットとして、同社ヘルスケア事業部事業開発室の横井祐氏は「技能実習・特定技能どちらも早期離職率は極めて低い。今後も外国人介護人材の早期離職率は日本人と比べ圧倒的に低い水準になるとみている」と強調。また、角氏は「経営層が旗振り役となり、外国人採用に関して法人内での周知を徹底しながら、中長期的なビジョンで受け入れを進めてほしい」と訴えた。

同社では外国人のスタッフを採用しており、技能実習生の日常生活のサポートや定期的な面談等のフォローも行っている。